

# 地域連携ネットワークの 過去10年と今後の10年

筑波技術大学

石田久之

# 今日お話しする内容

1. 現状
2. 過去10年
  1. その前
  2. 試行錯誤
3. 今後の10年
  1. 大学間格差
  2. 地域ネットワークの変化

# 現状

- 大学で障害学生支援を意識(様々なレベルで)
- 大学ごとの取り組み



- 情報収集の場としての地域ネットワーク
- 担当者の“愚痴のはけ口”としての地域懇談会・情報交換会
  - 関西の地域性
  - 京都の地域性

# 過去10年 -その前-

- 1949年頃
  - 同志社大学, 立教大学
    - 点字受験, 盲学生の受け入れ
- 1987年
  - 筑波技術大学開学
- 2004年
  - 日本学生支援機構(JASSO)
    - 障害学生支援事業開始
  - PEPNet-Japan立ち上げ

# 過去10年 -大学の試行錯誤-

- 聴覚障害学生への対応
  - ノートテイクの確保が難しい
- 発達障害学生への対応
  - どうしたらよいのか分からない
- 予算がない, 少ない
- 支援情報の入手困難
  - 誰に聞いたらよいのか分からない
- 支援情報公開への躊躇
  - 公開してたくさん来たら困る

# 過去10年 –JASSOの試行錯誤–

- 2005年
  - 「障害のある学生の修学支援に関する実態調査」開始
  - 京都, 仙台, 福岡で「障害学生支援セミナー」開催
- 2006年
  - 春, 「障害学生修学支援コーディネーター養成プログラム研究会  
(コー研)」開催(京都)
  - 夏, 「障害学生修学支援コーディネーター養成プログラム」開催(京都)

## 障害学生修学支援 コーディネーター養成プログラム テキスト



### 著者紹介



京都精華大学 障がい学生支援室 磯垣 節子  
京都精華大学の職員で、学生課・就職課を経て、2004年9月から設置された障がい学生支援室の担当となり、障がい学生支援業務の運営・管理を担当しています。以前は、教務課や学生課が担当していた業務を引き継ぎ、さらに支援業務の充実を目指して、年間計画の実施、支援方法や支援システムを構築していくことに取り組んでいます。また、障害学生や多くの支援学生と出会い、学生のパワーや優しさを感じました。今後は学生と共に、ボランティア活動にも力を注ぎたいと思います。



佛教大学 学生部 学生課 川本 邦子  
佛教大学に奉職し、就職部、通信教育部等をへて1999年4月より学生部に勤務。主に奨学金を中心とした経済支援の担当をしながら2005年4月より障害学生支援の業務に携わっています。障害学生支援を担当し、模索状態でしたが障害学生、支援学生とコミュニケーションをとることでより多くのことを学ばせてもらっています。そして自分自身が障害を知ること、理解することがとても大切だと感じています。



京都産業大学 ボランティア活動室 黒崎 久生  
2004年度に障害のある学生が3名入学しましたが、当時学生部にいた著者が障害学生と間接的に関わった経緯から、2005年度にボランティア活動室が設置され、全学的な窓口となった後も引き続き専任担当となりました。支援を必要とする学生は数多く少ないものの、支援方法の確立されていない障害学生の対応に苦慮する日々です。また、障害学生の支援とともに、当室の業務としてボランティア活動の支援も行っています。



同志社大学 学生支援課 障がい学生支援コーディネーター  
土橋恵美子  
学生時代に近畿学生懇談会メンバーとして、近畿各地の大学で学ぶ聴覚障がい学生の講義保障（手話通訳）を行うと共に、手話通訳者および盲ろう者訪問相談員として約10年間、地域のろう者や盲ろう者の通訳活動を行ってきました。  
2002年1月、同志社大学学生課（現在 学生支援課）に障がい学生支援担当者として採用。障がい学生と支援するスタッフの自律的成長に着目し、コーディネート業務全般を担当しています。

## 目次

はじめに	1
著者紹介	3
1. 障害学生修学支援コーディネーターとは	5
2. 支援に関する業務	7
入試対応（入試相談、入試の特別措置、特別措置の実施方法、大学案内）	
障害学生支援（概要と年間スケジュール、合格から授業開始までの準備、障害別のサポート準備、授業と定期試験の支援、アイマスク体験、課外支援（正課外、入学式・卒業式など）、自立支援、相談受付・要望聞き取り）	
支援学生支援（概要と年間スケジュール、マネジメント業務、講習会（技術・マナー）の開催、学び・成長の支援、ノートテイク体験、相談受付・要望聞き取り）	
教員支援（配慮の依頼、配慮の実際、教員からの相談）	
3. 庶務に関する業務	17
管理・運営（運営組織、備品管理）	
施設改善（施設の点検と改善）	
連絡調整（学内連絡、学外連絡）	
4. 広報に関する業務	21
広報（理解・啓発、ホームページの活用）	

### 〈表記上の注意〉

本テキストでは、著者紹介以外の各項目において、障害のある学生を「障害学生」と表記しています。「障害」については、様々な表記方法がありますが、本テキストは障害学生修学支援コーディネーターの養成を目的としたものであり、その表記方法に関する考えを示すものではありません。

# 支援学生支援 見本集

〔障害学生修学支援コーディネーター養成講座〕

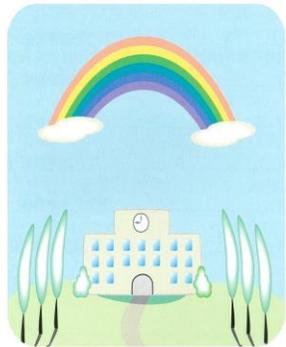
2006年8月24日・25日

日本学生支援機構京都支部

## 目次

支援学生支援資料見本集解説	i
<b>1. 制度説明</b>	pg1
関西学院大学 2006年新入生へのお知らせ	pg3
京都産業大学 支援学生募集チラシ [入試合格者宛先リーフレット 2006年度版]	pg4, 5
同志社大学 障害学生支援制度	pg6~13
佛敎大学 H18 ノートテイクについて	pg14, 15
<b>2. 募集チラシ</b>	pg17
大阪大学 ノートテイクー募集	pg19
関西学院大学 2006 秋新規 NT 募集文	pg20
京都産業大学 ティーカーー募集協力依頼 (学生のみなさんへ)	pg21
佛敎大学 ノートテイクー手話通訳者募集	pg22
<b>3. 登録用紙 シフト表 出勤簿</b>	pg23
大阪大学 出勤表	pg25
学習補助者登録票	pg26
関西学院大学 2006 サポートスタッフ申込書	pg27
京都産業大学 2006 年度 春 サポーター登録カード&記入の注意	pg28~30
アルバイト出勤簿	pg31
シフト表	pg32
マッチング表	pg33~38
シフト表 フリーサポーターリスト	pg39
同志社大学 スタッフ (一般) 登録書	pg40
スタッフ (学生) 登録書	pg41
コーディネーター表	pg42
試験対応	pg43
謝礼処理	pg44
謝礼支給連絡所 兼 業務報告書	pg45
銀行口座振込依頼書	pg46, 47
佛敎大学 対面別紙	pg48
ノートテイク時間割表	pg49
ノートテイクピンチヒッター表	pg50
2005 アルバイト時間精算書 (様式 2)	pg51
2005 アルバイト時間精算書 (様式 2) 書き方見本	pg52, 53
ボランティア登録票・銀行口座登録票	pg54, 55
労働条件通知書 (様式 1)	pg54, 55
立命館大学 夏期集中サポーターシフト	pg54, 55
<b>4. 各種講座</b>	pg57
京都産業大学 ノートテイクー養成講座ポスター	pg59
同志社大学 基礎・応用講座	pg60
入門講座	pg61
立命館大学 ノートテイク講習会	pg62
視覚に障害のある人のサポート入門講座	pg63
サポート講習会~車イス利用の学生編~報告	pg64~66
<b>5. 企画 理解・啓発</b>	pg67
大阪大学 身体障害学生支援室セミナー	pg69~71
バリアフリー	pg72
京都産業大学 バリアフリー&ハザードマップ調査ポスター	pg73
同志社大学 2006 年 7 月懇談会ご案内 (学外資料として)	pg74
Challenged キャンプ	pg75

# はじめて障害学生を 受け入れるにあたって



## 目次

	ページ
はじめに	
1. 入学・受験相談	1
2. 入学試験	3
3. 準備期間	4
4. 年度始め	6
5. 連休を過ぎて	8
6. 定期試験	10
7. 夏休み	11
8. 後期授業	12
9. 年度末と次年度	13
10. 学外実習	15
11. 就職支援	16
四つのポイント	17
索引	18

### \* コラム \*

・連絡方法	7
・ノートテイカーの必要人数	9・12
・障害者枠	16

# 障害学生修学支援メニュー

(冊子版)



平成 18 年 9 月

 独立行政法人  
日本学生支援機構  
JASSO Japan Student Services Organization

## 目次

はじめに	1
I. 障害学生修学支援メニューの活用方法	2
【一覧ページ】	4
II. 障害学生の修学支援メニュー（サービス（ソフト））	5
<small>各事項の詳細内容については、該当の詳細ページ（9～32頁）を参照してください。 （注）対応範囲が違って、詳細内容について共通な頁を参照していただく場合があります。</small>	
III. 障害学生の修学支援メニュー（建物・設備・備品（ハード））	6
IV. 障害学生の修学支援メニュー（体制）	7
【詳細ページ】	8
V. 【サービス（ソフト））メニュー・詳細ページ	9～32
・あとがき「どのように使いますか」	33

## はじめに

大学・短期大学・高等専門学校（以下「大学等」）における障害学生に対する修学支援は、現状では受け入れを判断した大学等が障害学生・支援学生等との協同により独自に取り組みられていますが、このメニューは、大学等で障害者を受け入れるにあたって必要となる支援内容をメニュー形式に整理し、大学等で修学支援方を検討される際の参考にしていただくために作成したものです（本誌はインターネット上で提供するWeb版を元に、冊子版として作成したものです）。

障害学生修学支援メニューは大きく分けて、「①サービス（ソフト）」「②建物・設備・備品（ハード）」「③体制」の3つの「一覧ページ」で構成されており、障害者を受け入れる際、どういった支援内容が必要となるのかを一覧形式で提示しています。また、その支援内容は、障害種別、レベル別、対応画面別に分かれており、さらに①サービス（ソフト）については、それぞれの具体的な支援内容を「詳細ページ」において説明していますので、修学支援策の検討・調整において、様々な角度から活用いただけるものと考えます。（障害学生修学支援メニューの活用方法につきましては、2頁から3頁を参照ください。）

なお、この「障害学生修学支援メニュー」（冊子版）につきましては、以下の事項をご確認・ご了承の上、ご活用をお願いいたします。

～ 障害学生修学支援メニュー（冊子版）について ～

① メニューの各支援内容は、あくまで障害学生修学支援の参考情報です。

② メニューの各支援内容の優先度や重要性は、大学等の規模や支援を希望する障害学生在籍数等により、異なる場合があります。

③ 必要となる支援内容は、障害の程度や個人の状況によって変わることがあります。

そのため、それぞれの支援内容については、当該学生との調整が必要となります。

④ 今後、関係各位のご意見を頂戴し、よりよいものに改善したいと考えております。

（最新情報は、Web版で随時ご提供いたします。）

高等教育機関における障害学生の修学支援に関する取り組みを行っている日本学生支援機構では、このたび、「障害学生修学支援メニュー」を作成し、インターネット上のホームページ及び冊子の形式で提供することになりました。本メニューの作成・評価にあたり、ご協力いただきました皆様には厚く御礼申し上げます。

日本学生支援機構 学生生活部長 和氣 太司

【本件に関するお問い合わせ先】 (独) 日本学生支援機構 学生生活部 特別支援課  
TEL 045-924-0362 FAX 045-924-0376 E-mail: tokubetsushien@jasso.go.jp  
ホームページ: [http://www.jasso.go.jp/tokubetsu\\_shien/](http://www.jasso.go.jp/tokubetsu_shien/)

## 過去10年 –KSSKの試行錯誤(1)-

- 様々な大学が持っている支援情報の共有が必要  
⇒ 地域ネットワークを作ろう
- JASSOの拠点事業
  - なぜかあまり活発な活動は見られなかった
  - 拠点大学を中心に地域ネットワークが作られる
    - 京都, 北海道(札幌),etc.

# 過去10年 –KSSKの試行錯誤(2)-

- KSSKの発足
  - 関西障害学生支援担当者懇談会  
(Kansai Syougaigkausei Shientantousya Kondankai)
  - 予算がない(場所は幹事校の持ち回り)
  - 支援を必要とする支援担当者への支援が十分にできない
- 大学コンソーシアム京都の一事業として再出発(助かった！)

# 今後の10年 -大学間格差-

- 格差の現状
    - 支援職員の数
    - 専門員の配置の有無
    - 支援内容・設備
  - 大学・法人の考え方
    - お金も人もないよ
- ↓
- やらなきゃならない
    - 様子見から, 戦略へ(受験生の取り込み)

# 今後の10年 –地域ネットワークの変化–

- 情報共有
  - 情報の発信と受信



- 情報収集
  - 情報の受信~~（発信）~~
  - 自大学の戦略に沿った必要な情報の入手

# 今後の10年 -拠点化・拠点大学-

- ネットワーク維持に大きな負担

※ 設置等に関わった人が移動・退職する場合の引継ぎ



- 拠点大学や地域ネットワークの増加は期待できない



- 今あるネットワークを大切にしましょう

# 障害学生支援の目指すところ

- 大学の教育改革の一つ
  - 障害学生, 留学生, 働きながら勉強する学生, 高齢者の学び直しなど, 少数者への教育的配慮の一つ
- 変化への対応能力の育成
  - 支援する側, される側, いつでも変わりうる
  - 学生生活4年間での変化
  - 支援と自立

# まとめ

- 自大学に合った支援の確立
- そのためのネットワークの利用



- 基礎知識の獲得
- 事例共有
- 高度な専門性へのステップアップ講座